



南西面

持続可能な安心・快適・自由な暮らしをつくる 独立型発電のエコ民泊「富津ゆめゆめハウス」

熱効率の良い立方体形状の9坪の家をパッシブ化。屋根一体型太陽光パネルと蓄電池を組み合わせることで、エネルギー消費を最小限に抑え、自給自足の発電ライフを実現する。民泊施設とすることで経済的に多拠点生活を可能にし、民泊体験を通じて新たな暮らしを発信する。



東面



全景



西面 海側 すのこ壁



Power wall ×2



STAR LINK



北側 工作室



赤の玄関



多段式回廊テラス



南側 500L 雨水タンク



絶景を取り込む開放的な窓

設計ポイント

- ・9坪ハウスのパッシブハウス化
- ・太陽光電による完全な独立型発電システム
- ・自然を取り込む開放的な窓の位置と大きさ
- ・民泊を前提にした直感的な使用感
- ・周辺環境に馴染む外観
- ・9坪ハウスの民泊+趣味の2小部屋
- ・Less is more.



FIXの大窓の下に通風用小窓



冷蔵庫左上ガラリ中に六畳用エアコン



洗面、洗濯、トイレ、風呂を一体化



階段下の玄関と奥は畳くつろぎスペース



壁面仕上げは100%天然のリモ珪藻土で調湿



工作室

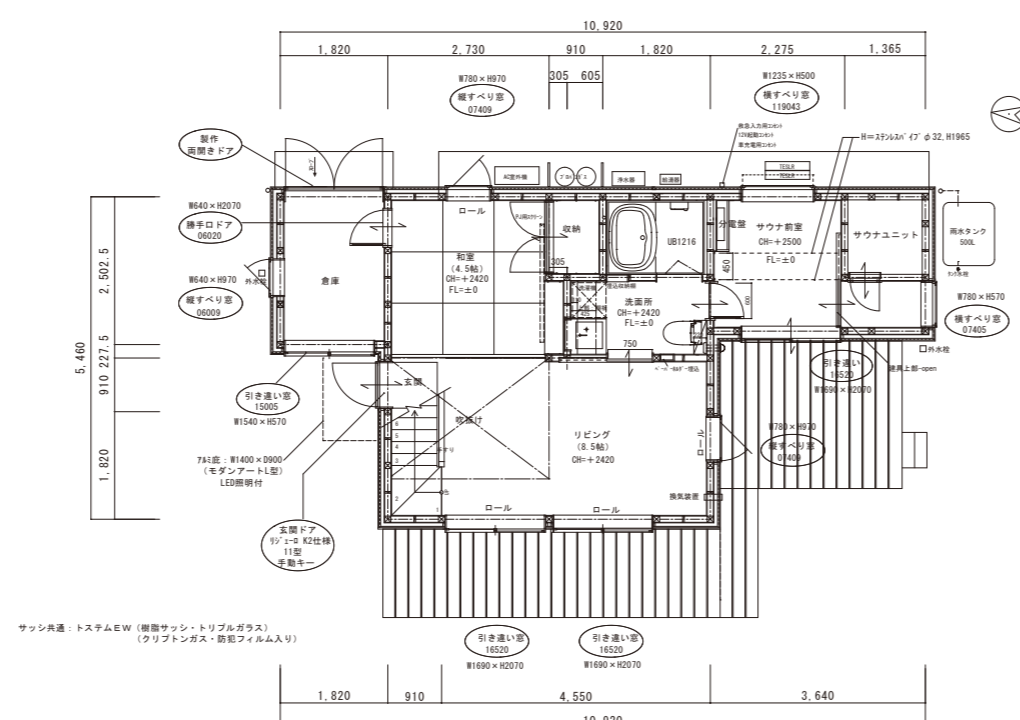


サウナ室

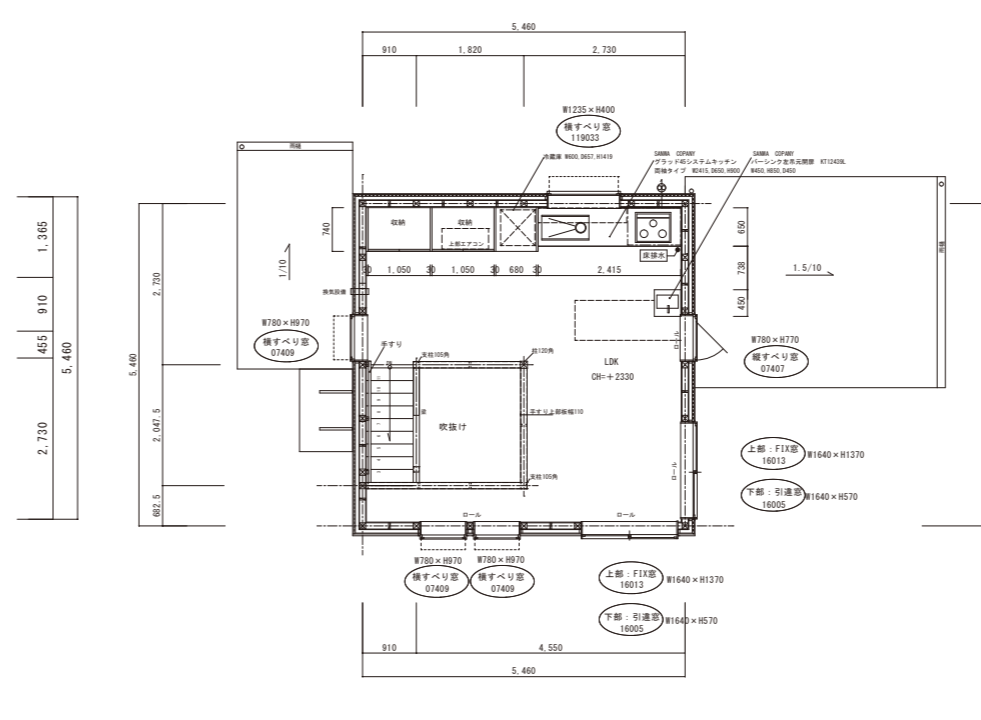
仕様

●建築概要	
建設地	千葉県富津市八幡5-6-1
家族構成	2名(民泊時:3名まで)
建築費用(建物のみ)	3,800万円(独立電源システム含む)
構造	木造軸組工法
敷地面積	640.59㎡
建築面積	42.65㎡
延床面積	68.74㎡
●省エネルギー性能	
断熱等級	断熱等級6 地域区分6(木更津)
UA値(もしくはQ値)	0.31(1.14)
r/A値(日射取得)	暖房期: 1.1 冷房期: 1.6
創エネ設備	屋根一体型太陽光電 Roof-1 (8.14kwh) Tesla power wall 13.5kwh 2台 合計27kwh
耐震性能	耐震等級3、耐風等級2 (N値計算による品確法性能表示)

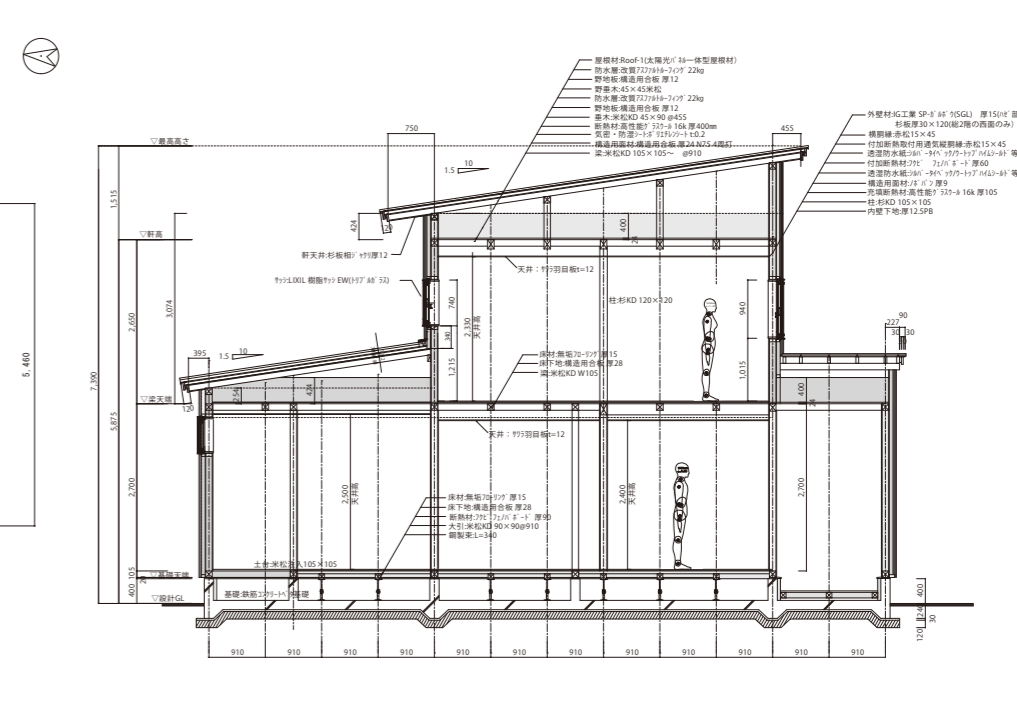
1f 平面図



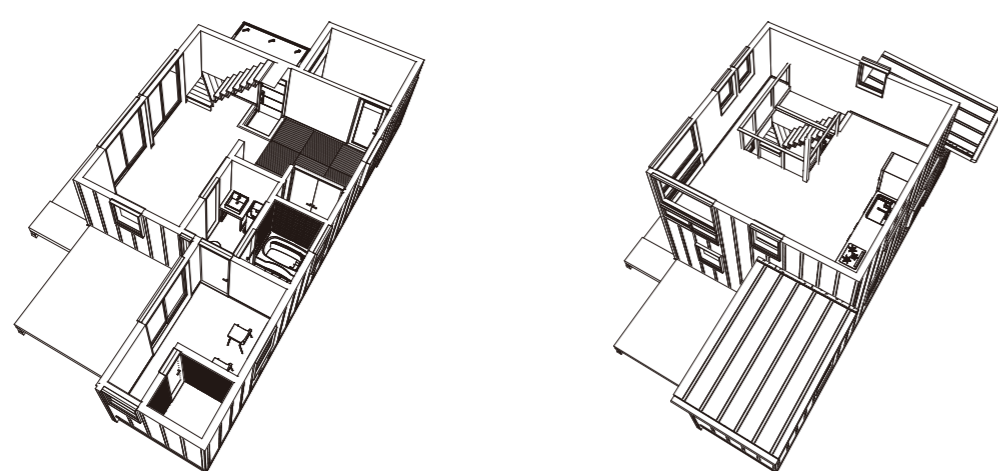
2f 平面図



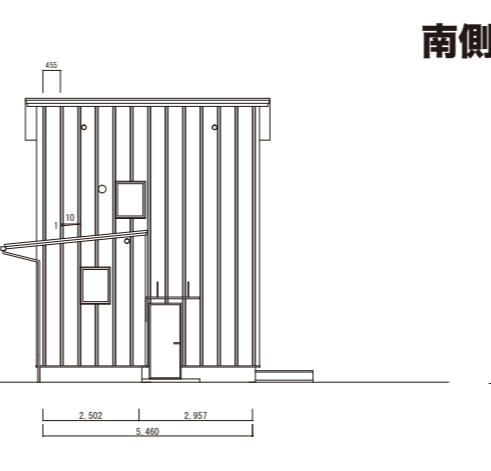
縦計図



鳥瞰図



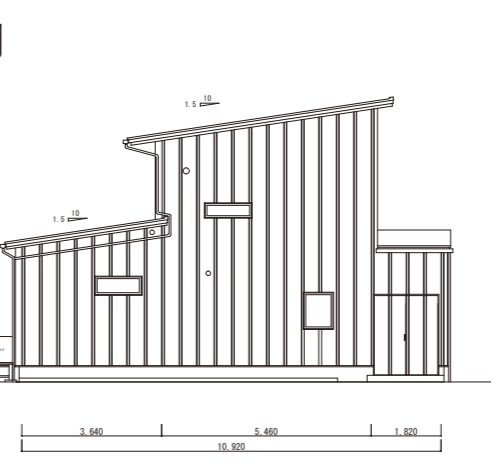
北側



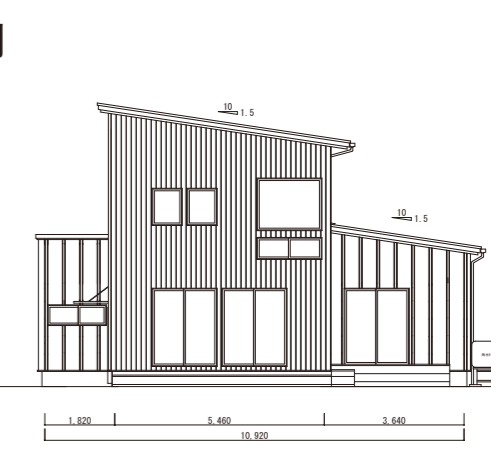
南側



東側



西側



工夫した点



105ミリを4枚重ね

2階の桁上断熱施工

パッシブハウスの2階は傾斜天井が多いが、今回は平天井にした。理由は3つある。一つ目は主構造を縦横で組むことができ、簡単に強い構造を作れる。二つ目は桁上断熱で天井断熱材の積み込みが水平になるので施工が楽。三つ目は、9坪ハウスの空間が立方体になり、快適温度にコントロールする空間が最小になる。以上の3つの理由により、効率よくパッシブハウスの性能が出せると考えた。



海に面した西壁はすのこ壁

外部付加断熱の施工：ファサードラタン(すのこ壁)

ファサードラタン工法は、近年ドイツで普及しているサステナブルな外壁仕様である。すのこ状の隙間から雨水があて入るようになるので、丈夫で耐候性のあるドイツ製の特殊シートを木材の下部全面に張る。木材の表面温度よりもシートの表面温度が下がり省エネにつながり、通気も良いため木材の耐久性向上にも貢献する。海に面した西壁以外はガリバリウム鋼板。



絶景を取り込む開放的窓

窓と景観

景観を生かすため、空中に線のないオフグリッドにすることで電柱や電線による景観被害をなくした。海前の絶景を存分に楽しめるように、2階をキッチンにして、周辺の自然な風景を実地検証して窓の種類、方向、大きさを慎重に計画して決定した。サッシは全てLIXIL EWの樹脂サッシでトリプルガラス・クリプトンガス・防犯フィルム入りを使用。結果雨戸のないすっきりした外観で、エコ性能、風害、防犯、メンテナンス性を確保出来、絶景を生かした開放性のあるデザインが可能となった。



STAR LINK と Power wall

Tesla power wall / STAR LINK

Tesla power wall 13.5kwh 2台を重ねて設置して合計 27kwh。現在の工業製品の中でダントツにシステム性能がよく、価格もリーズナブル、美しくコンパクトな製品で10年保証。電源もオフグリッドだが、情報通信(インターネット)も電線とは繋がっていない。STAR LINK は世界中どこでもつながりユーザー居住地の地上インフラに頼らない。電源と情報通信の完全オフグリッドが達成できた。災害時に強く景観保全にも良い電線のない「持続可能な安心・快適・自由な暮らしをつくる」に一歩近づいた。



太陽光電があるとは思えない

太陽光電 Roof-1

太陽光電一体型屋根 Roof-1 は、日本のベンチャーが手がけた新しいコンセプトの太陽光電である。見た目はまったく太陽光電パネルがついているとは思えず美しい。約1.5倍ぐらゐ価格が高かったが、シンプルな屋根が映え、美しいエコな景観の未来を想像してRoof-1を採用した。通常保証20年、強風地域10年の保証がつく。セルの変換率は18%ぐらゐだがRoof-1は端まで太陽光セル入りで、最大発電量を上げられる。今回8.14kwh載せられた。



独立電源のための配電盤

独立型電源の工夫

主要設備と予備設備の二通りに分電盤を分け、独立電源システムの供給が足りない場合や非常用電源入力時に、主要設備だけで節約して生活できる。電源システムが故障したりして供給不能になった場合の非常電源入力時には、独立電源システム側に電気を入れないよう遮断スイッチを入れシステムを保護する。非常用電源は日常使用のプロパンに接続、燃料のメンテが不要となり3日間運転が可能となるHONDAのポータブルLPガス発電機を使用する。



富津ゆめゆめハウスの全景動画

<https://youtu.be/Yefj0JLo-Cw>



持続可能な暮らしをつくる :note

https://note.com/arth_asai/n/n777e42df2299



不在型民泊の「ゆめ」をひろげる

www.yumeyumetravel.com

GOOD DESIGN AWARD 2024

審査ユニット

12 建築 (戸建て住宅)

作品名

民泊用住宅 [独立型発電のエコ民泊「富津ゆめゆめハウス」]

審査番号

G1203264

●建築概要

竣工年月	2024/5/22
家族構成	2名(民泊時:3名まで)
建築費用(建物のみ)	3,800万円(独立電源システム含む)
構造	木造軸組工法
敷地面積	640.59㎡
建築面積	42.65㎡
延床面積	68.74㎡

●省エネルギー性能

断熱等級(地域区分を記載)	断熱等級6 地域区分6(木更津)	
UA値(もしくはQ値)	0.31 (1.14)	
ηA値(日射取得)	暖房期: 1.1 冷房期: 1.6	
断熱仕様	屋根・天井	HGW24K 420mm
	外壁	HGW16K 105mm + フェノバ ボード 60mm 海側西壁はファサードラタン工法、その他はガリバリウム鋼板
	床・基礎	フェノバボード 90mm
	窓	サッシ枠: LIXIL EWT-リプルTG ガラス: トリプル(クリア×クリア) Kr10(防犯フィルム入り)
空調設備	暖房/冷房: Panasonic エオリア エアコン CS-223DFL-W 6畳用	
換気設備	PASSIV ENERGIE JAPANダクトレス熱交換型換気扇せらぎ AQ	
給湯設備	ノーリツ ガス給湯器プロパンガス用 屋外壁掛形 24号GQ-2439WS-1	
創エネ設備	ソーラー: 屋根一体型太陽光電 Roof-1 (8.14kwh) 蓄電器: Tesla power wall 13.5kwh 2台 合計27kwh	
耐震性能		
その他(劣化対策性能など)	耐震等級3, 耐風等級2 (N値計算による品確法性能表示) 外壁はすのこ壁とガリバリウム鋼板。	

●計画

企画	ゆめゆめ株式会社	
基本デザイン	水田和弘	
実施設計・施工	株式会社菅沼建築設計	
民泊	不在型民泊運営	ゆめゆめ株式会社
	準備・試験期間	2024年6月より約1年間試験運用と準備
	民泊業務開始	2025/4/1
持続可能なくらしをつくるまで note	https://note.com/arth/asai/n/n777e42df2299	
民泊運営サポート「ゆめゆめトラベル」	www.yumeyumetravel.com	
全景動画	https://youtu.be/Yefi0iLo-Cw	
建設地	千葉県富津市八幡56-1	

●企画の視点や工夫

①脱炭素時代の省エネ住宅の提案

増沢 洵(ますざわ まこと)氏の極小住宅の名作「吹き抜けのある最小限住宅」(1952)を源流とした9坪ハウスを高断熱・高気密化にパッシブハウス化して屋根一体型太陽光パネルと高性能蓄電池を組み合わせることで、エネルギー消費を最小限に抑え、自給自足の発電ライフを実現する。不在型民泊の運営をサポートする「ゆめゆめ株式会社」が経済的に民泊による多拠点生活を可能にし、エコ民泊「富津ゆめゆめハウス」の実験が持続可能で自由なくらしのヒントを提供する。

②地域・周辺環境に合わせたパッシブ設計

周辺の自然環境と景観を生かすため、空中に線のない完全なオフグリッドシステムを採用した。その結果、海前の絶景の電柱や電線による景観被害をなくした。その上で、絶景を楽しめるように、2階をキッチンにし、周辺の自然な風景を実地検証して窓の種類、方向、大きさを慎重に計画して決定した。サッシは全てLIXIL EWの樹脂サッシでトリプルガラス・クリプトンガス・防犯フィルム入りを使用した。結果雨戸のないすっきりした外観で、エコ性能、風害、防犯、メンテナンス性を確保出来、絶景を生かした開放性のあるデザインが可能となった。海に面した西側は、杉材30mm厚のすのこ壁(ファサードラタン工法)にして、その他の壁はシックなダークグレーのガリバリウム鋼板の組み合わせにして、周辺の自然環境に調和し、経年変化にも強くサステナブルで環境になじむ外観を心がけた。

③自然エネルギーを活用した創エネルギーの提案

極小9坪ハウスを高断熱・高気密化して最小エネルギーで快適温度がコントロールできるようにパッシブハウス化した。その上で、屋根一体型太陽光パネル「Roof-1」8.14kwh(強塩害地域で10年補償)と、蓄電器「Tesla power wall」13.5kWh(10年補償)2台で合計27kWhを組み合わせ、完全オフグリッドの自給自足の発電ライフを実現した。創エネルギーは、誰もが同じことを安全快適にできるよう、補償付きの誰もが使える工業製品で計画することを前提とした。

④新しい試みや挑戦

9坪ハウスの特質をエコ的な観点から捉え直し、持続可能なくらしへの新たな建築アイテムとして価値付けをした。9坪エコハウスによる民泊体験。未来を見据える新たなエコライフ体験と他拠点生活の可能性の提供と発信。屋根一体型ソーラのRoof-1とTesla power wallによるオフグリッド電源システムとSTARLINKによる情報通信利用によってユーザー居住地の地上インフラに頼らない、電源と情報通信の完全オフグリッド化を実現した。インフラのないどんな場所でも環境に配慮した安心快適な暮らしの可能性を実証し、不在型民泊にすることで、自由で快適な他拠点生活を提案する。パッシブハウスの2階は、傾斜天井にして空間をつくることが多いが、今回は2階を平天井にし桁上断熱にした。理由は3つある。理由1. 主構造を縦横で組むことができ、簡単に強い構造を作れる。理由2. 桁上断熱にすることにより、天井への断熱材の積み込みが水平になり施工が楽。理由3. 9坪ハウスの空間が正立方体になり、快適温度にコントロールする空間が最小になる。この3つの理由により、効率よくパッシブハウスの性能が出せると考えた。

⑤心地よさ、暮らしやすさを考慮したプラン

9坪ハウスは極小ではあるが、1階の四畳半4つと2階の四畳半3つと吹き抜けを組み合わせることで、さまざまなライフスタイルや環境に合わせてられ、かつ一体感があって狭さを感じない、家族が一つになれる素晴らしい基本プランである。その極小9坪ハウスを母屋として、趣味の小屋を両側に2つ付けることで、楽しさや使い方を広げた。プライベート空間の2つの小屋は民泊貸出しはしないため、空間的に切り分けができるような仕様にした。また多段式回廊テラスを巡らすことにより外界の環境を多様に楽しく使えるように工夫した。500L雨水タンクも備え、庭の散水や非常時に使えるように暮らしのエコと安心感を加えた。誰もが使用する民泊利用を前提にするため、大型の収納以外は、極力扉やつけない棚をうまく使用することで、直感的に使えるよう配慮して滞在ができるよう心がけた。室内壁面は100%天然のリモ珪藻土で仕上げた。珪藻土の調湿性とリモナイトの吸着分解性で空気を清浄にする。

⑥安心して住み続けられる耐震性の確保

耐震等級3, 耐風等級2 (N値計算による品確法性能表示)
伝統的な木造軸組工法なので、2階はあえて傾斜天井ではなく平天井にして、主構造を縦横で組むことにより強固な構造をめざした。

⑦公共に配慮した普遍的な美しさ

1952年の増沢 洵自邸「吹き抜けのある最小限住宅」を原点とした9坪ハウスは、その後さまざまな建築家がリメイクしている普遍的な極小住宅のプランである。そのコンセプトは、エコ時代のLESS IS MORE や、SMALL IS BEAUTIFUL につながる普遍の基本プランである。持続可能性を求められる今だからこそ、この極小の基本プランや合理的な精神を活かして、時代の変化に合わせた価値を加えた発展を願う。

⑧長持ちするための工夫や維持管理の提案

一回り大きな一辺が(6,000mm)の10坪ハウスもあるが、今回はあえて日本の伝統的な寸法に合わせた一辺が3間(5,460mm)である原点の9坪ハウスにこだわった。そのことにより、材料の無駄が出ないで作ることができ、今後のメンテにおいても維持管理が安くなる。また外観は強塩害地域であることも考慮して、屋根などにも使われるガリバリウム鋼板を外壁にも使用した。海に面した西壁面は、近年ドイツで普及しているサステナブルなすのこ壁のファサードラタン工法である。すのこ状の隙間から雨水があえて入るようになるので、丈夫で耐候性のあるドイツ製の黒い特殊シートを木材の下端側全面に張り込む。木材の表面温度よりもシートの表面温度が下がり省エネにつながり、通気も良いため木材の耐久性向上に貢献する。電源のオフグリッドシステムは誰もが安心快適に維持管理できる強塩害地域でも10年補償付きの工業製品を選んで、将来も長く安心して使えることを考えた。

省エネ性能

性能計算結果（暖冷房エネルギー）（6地域 木更津）

Serial No.0611

各性能値,自然温度差等計算結果

Q値	1.14 [W/m ² K]
UA値	0.31 [W/m ² K]
ηAC値	1.6 [-]

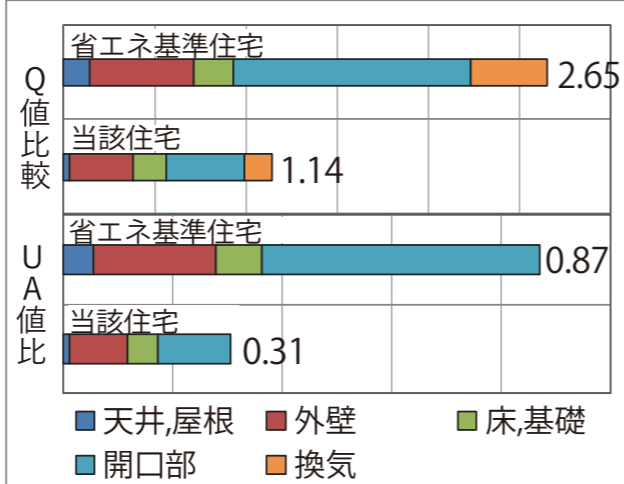
	暖房期	冷房期
デグリーデー	747	1011
自然温度差	7.09	8.93
日射取得熱	278	448

※木更津のデグリーデー

暖房DD D₁₈₋₁₈ : 1538

冷房DD D₂₇₋₂₇ : 508

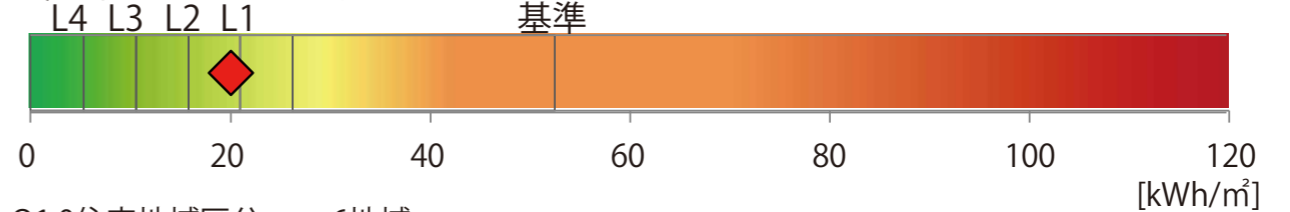
住宅の熱損失



暖冷房負荷計算結果（冷房は冷房必須期間負荷を表示）

	住宅全体	1㎡あたり
暖房負荷	1624 [kWh]	20.1 [kWh/m ²]
冷房負荷	1335 [kWh]	16.5 [kWh/m ²]

Q1.0住宅のレベル判定

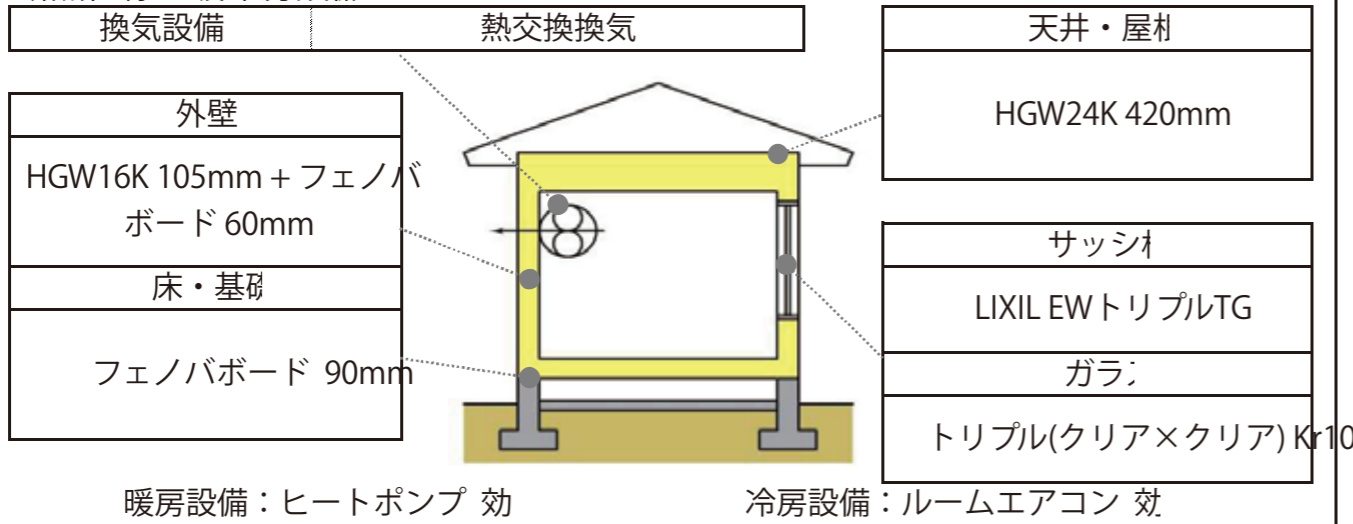


Q1.0住宅地域区分 6地域

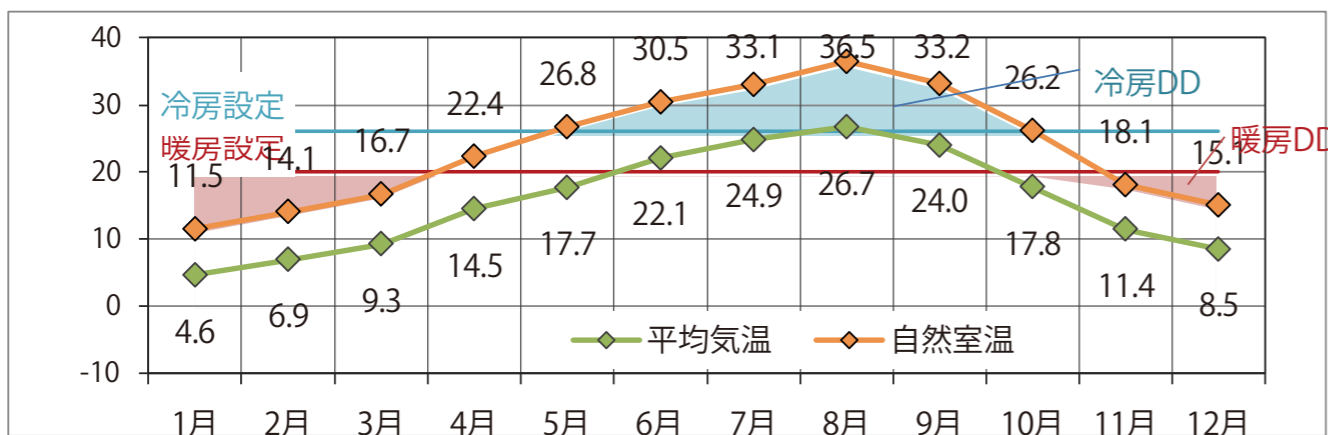
Q1.0住宅レベル基準	熱負荷(kwh以下)		灯油(l以下)	
	1㎡あたり	住宅全体	1㎡あたり	住宅全体
省エネ基準	100%	52.4	484	
準Q1.0	50%以下	26.2	242	
Q1.0 L1	40%以下	21.0	194	
Q1.0 L2	30%以下	15.7	145	
Q1.0 L3	20%以下	10.5	97	
Q1.0 L4	10%以下	5.2	48	

省エネ基準住宅モデルに対し	
38.4%	
この住宅は	
Q1.0住宅Level-1	

断熱仕様と暖冷房設備

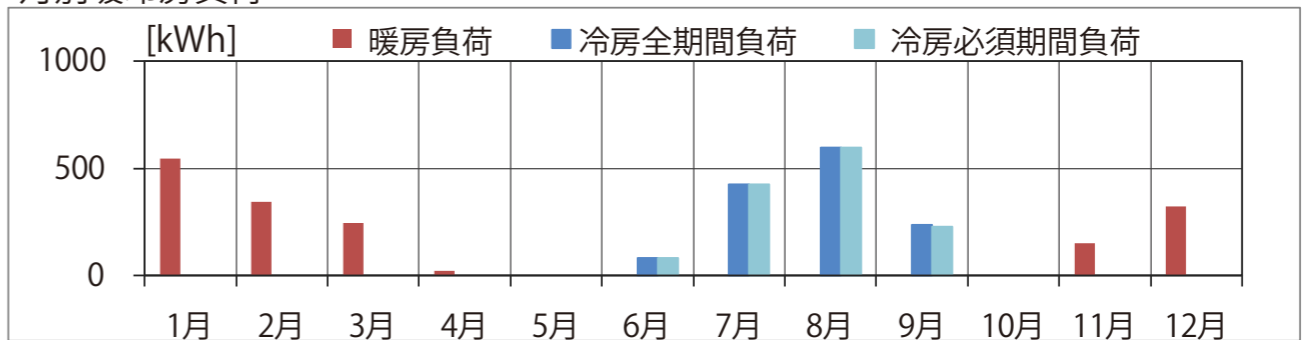


各月の平均外気温と平均室温



※自然室温：空調なしでの、日射取得と室内発熱による月平均室温
暖冷房負荷は熱損失と上記暖房(冷房)DDより計算しま

月別暖冷房負荷



暖冷房エネルギー,燃費計算結果

	省エネ基準住宅[kWh]	当該住宅					
		熱負荷[kWh]	使用熱源	消費量	効率	単価[円]	燃費[円]
暖房	4,232	1,624	電気	541 kWh	3.00	30	16,230
冷房	1,876	1,335	電気	445 kWh	3.00	30	13,347
合計	6,109	2,959	-	-	-	-	29,577

暖冷房設定:全館連続運転 暖房設定室温 20℃ 冷房設定室温 26℃ 湿度60%

気象データ : 拡張アメダス気象データ2010年版 標準年気象データ



南西面

持続可能な安心・快適・自由な暮らしをつくる

独立型発電のエコ民泊 「富津ゆめゆめハウス」

熱効率の良い立方体形状の 9 坪の家をパッシブ化。屋根一体型太陽光パネルと蓄電池を組み合わせることで、エネルギー消費を最小限に抑え、自給自足の発電ライフを実現する。民泊施設とすることで経済的に多拠点生活を可能にし、民泊体験を通じて新たな暮らしを発信する。



東面



全景



西面 海側 すのこ壁



Power wall ×2



STAR LINK



北側 工作室



赤の玄関



多段式回廊テラス



南側 500L 雨水タンク



絶景を取り込む開放的な窓

設計ポイント

- ・ 9坪ハウスのパッシブハウス化
- ・ 太陽光電による完全な独立型発電システム
- ・ 絶景を取り込む開放的な窓の位置と大きさ
- ・ 民泊を前提にした直感的な使用感
- ・ 周辺環境になじむ外観
- ・ 9坪ハウスの民泊+趣味の2部屋は個人
- ・ Less is more.



FIX の大窓の下に通風用小窓



冷蔵庫左上ガラリー中に六畳用エアコン



洗面、洗濯、トイレ、風呂を一体化



コンパクトな玄関と奥は置くつぎスペース



壁面仕上げは 100% 天然のリモ珪藻土で調湿する



プライベートの工作室とサウナで楽しみが広がる



工夫した点



105 ミリを4枚重ね

桁上断熱の2階断熱施工

パッシブハウスの2階は傾斜天井が多いが、今回は平天井にした。理由は3つある。一つ目は主構造を縦横で組むことができ、簡単に強い構造を作れる。2つ目は桁上断熱で天井断熱材の積み込みが水平になるので施工が楽。3つ目は、9坪ハウスの空間が正立方体になり、快適温度にコントロールする空間が最小になる。以上の3つの理由により、効率よくパッシブハウスの性能が出せると考えた。



STAR LINK と Power wall

Tesla power wall / STAR LINK

Tesla power wall 13.5kWh 2台を重ねて設置して合計 27kWh。現在の工業製品の中でダントツにシステム性能がよく、価格もリーズナブル、美しくコンパクトな製品で10年保証。電源もオフグリッドだが、情報通信（インターネット）も電線とは繋がっていない。STAR LINK は世界中どこでもつながりユーザー居住地の地上インフラに頼らない。電源と情報通信の完全オフグリッドが達成できた。災害時にも強く景観保全にも良い電線のない持続可能なくらしをどこでも安心・快適につくれることに一歩近づいた。



独立電源のための配電盤

独立型電源の工夫

主要設備と予備設備の二通りに分電盤を分け、独立電源システムの供給が足りない場合や非常用電源入力時に、主要設備だけで節約して生活できる。電源システムが故障したりして供給不能になった場合の非常電源入力時には、独立電源システム側に電気を入れないよう遮断スイッチを入れシステムを保護する。非常用電源は日常使用のプロパンに接続、燃料のメンテが不要となり3日間運転が可能となる HONDA のポータブル LP ガス発電機を使用する。



海に面した西壁はすのこ壁

外部付加断熱の施工：ファサードラタン(すのこ壁)

ファサードラタン工法は、近年ドイツで普及しているサステナブルな外壁仕様である。すのこ状の隙間から雨水があえて入るようになるので、丈夫で耐候性のあるドイツ製の黒い特殊シートを木材の下地側全面に張る。木材の表面温度よりもシートの表面温度が下がり省エネにつながり、通気も良いため木材の耐久性向上にも貢献する。海に面した西壁以外はガリバリウム鋼板。



太陽光電があるとは思えない

太陽光電 Roof-1

太陽光電一体型屋根 Roof-1 は、日本のベンチャーが手がけた新しいコンセプトの太陽光電である。見た目はまったく太陽光電パネルがついているとは思えず美しい。約 1.5 倍ぐらい価格が高くなり迷ったが、シンプルな屋根が映え、美しいエコな景観の未来を想像して Roof-1 を採用した。通常保証 20 年、強塩害地域使用は 10 年の保証がつく。セルの変換率は 18% ぐらいだが Roof-1 は端まで太陽光セル入りにでき、最大限発電量を上げられる。今回 8.14kw 載せられた。



絶景を取り組む開放的窓

窓と景観

絶景を生かすため、空中に線のないオフグリッドにすることで電柱や電線による景観被害をなくした。海の前絶景を存分に楽しめるように、2階をキッチンにして、周辺の自然風景を実地検証して窓の種類、方向、大きさを慎重に計画して決定した。サッシは全て LIXIL EW の樹脂サッシでトリプルガラス・クリプトンガス・防犯フィルム入りを使用。結果雨戸のないすっきりした外観で、エコ性能、風害、防犯、メンテナンス性を確保出来、絶景を生かした開放性のあるデザインが可能となった。

その他のポイント



線のある街並み

線のない暮らし

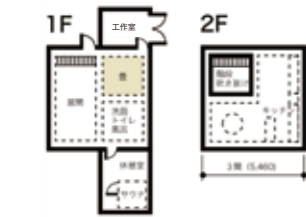
Tesla power wall と STAR LINK と Roof-1 での線をつながない完全オフグリッドシステムは、地域インフラに頼らず、空中に電柱や線は不用。電線の景観被害の抜本的な解決となる。日本の都市部は電線による景観被害がひどい。地中配線はお金がすごく高い。線のないオフグリッド化は「景観美化・エネルギーのベースロード・災害対策」など公的メリットがあり、公的補助があれば、未来の都市開発の手法としての可能性を持つ。オフグリッドの美しい街並みも夢ではない。



棚を中心とした直感的な収納

民泊仕様

建築基準法と消防法に合わせ、非常用照明と小規模自動火災報知器をつけた。だれでも直感的に使えるよう、大型収納をのぞいて出来るだけ扉のない棚を必要箇所に配置した。結果一目でわかりやすく使え、また退出時の忘れ物も少なくなる。今後ピクトグラム中心の案内もする。プライベート空間の2つの小屋は民泊貸出しはしないため、空間的に切り分けができるよう工夫した。



9坪ハウスの民泊+2小部屋

9坪ハウスの民泊は3人までの使用で一棟貸し。極小住宅の名作である一体感のある9坪ハウスが体感できる。そしてテスラパワーウォールの蓄電池、屋根一体型の太陽光発電 Roof-1、インターネットはスターリンクと最新技術をふんだんに盛り込んだ小さな実験ハウスである。それに加えてプライベートの工作室、サウナ室をつけた。極小9坪ハウスを母屋として、趣味の小屋を両側に2つ付けることで、楽しさや使い方を広げた。



工作室 サウナ室

設備バランス

今回線をつながない独立設備は、電源システムと情報通信と下水設備である。ガスはプロパン、水は水道を使用。コスト、メンテ、災害時などのバランスを考えて決定した。プロパンガスで熱エネルギーの役割を担い、電気エネルギーの負担を軽減する。非常時には日常使いのプロパンに小型LP発電機をつなぐと3日間使い燃料のメンテも不要となる。水道とは別に雨水タンク500Lを備え庭まきに使い、非常時には給水元の浄水器に接続し使用する。



独立電源+プロパン

DIY 精神！

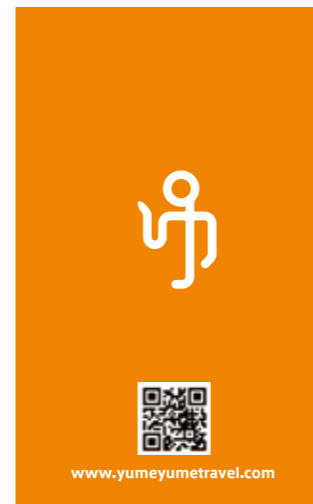
「作れるところは自分で作る」は、菅沼建築設計「素の家」のコンセプトの一つ。今回もタイル貼りや休憩室壁のリモ珪藻土の左官作業など多くの場所を施主が作成した。実際の作業を施主が携わることで、コスト削減と家への愛着だけでなく、職人への尊敬と感謝が生まれる。施主と工務店が一つになって作る家が完成した。



リモ珪藻土左官作業

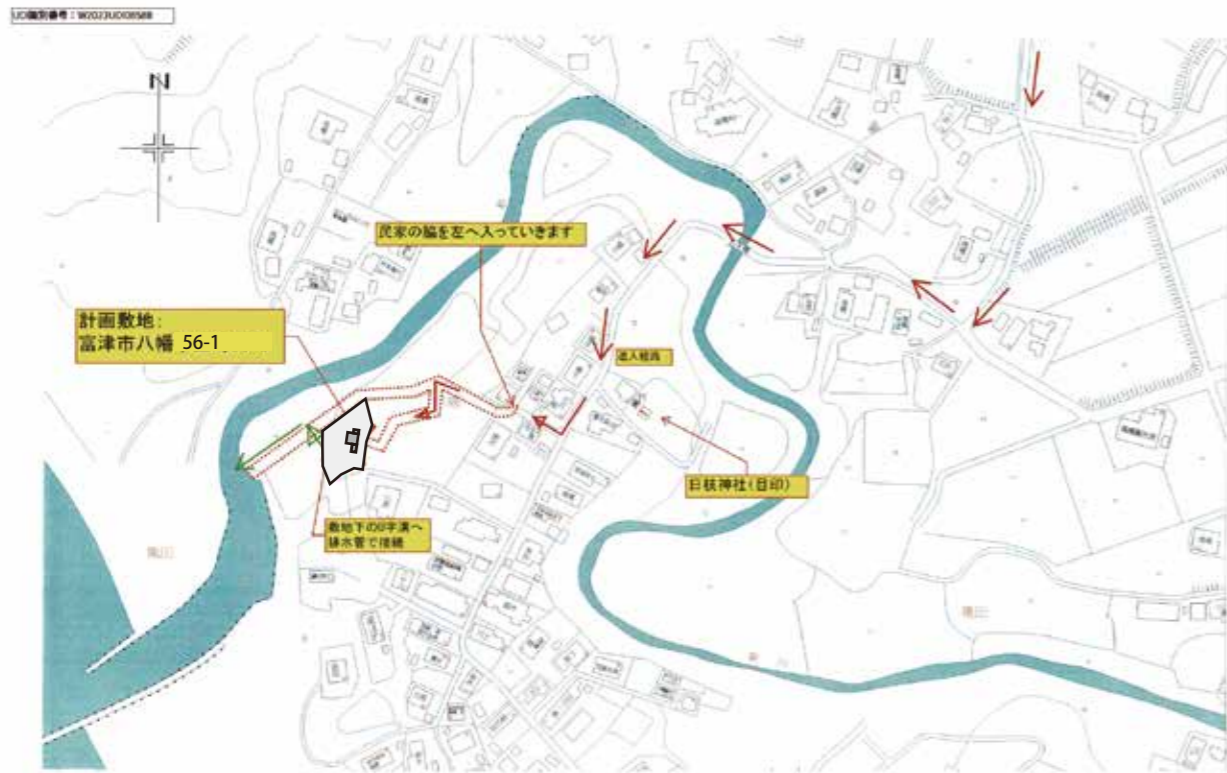
不在型民泊の「ゆめ」をひろげる

2016年熊本地震をきっかけに、不在型民泊を始める。2018年住宅宿泊事業法（民泊新法）ができて、不在型民泊の運用方法に悩み、自ら住宅宿泊管理業者の資格を取得。個人で不在型民泊の運営を応援をするゆめゆめトラベルの活動を開始。2023年ゆめゆめ株式会社として法人化。不在型の民泊の可能性を広げるために、多拠点生活や魅力ある民泊づくりなど、不在型民泊の可能性をひろげるサービスを拡充中である。

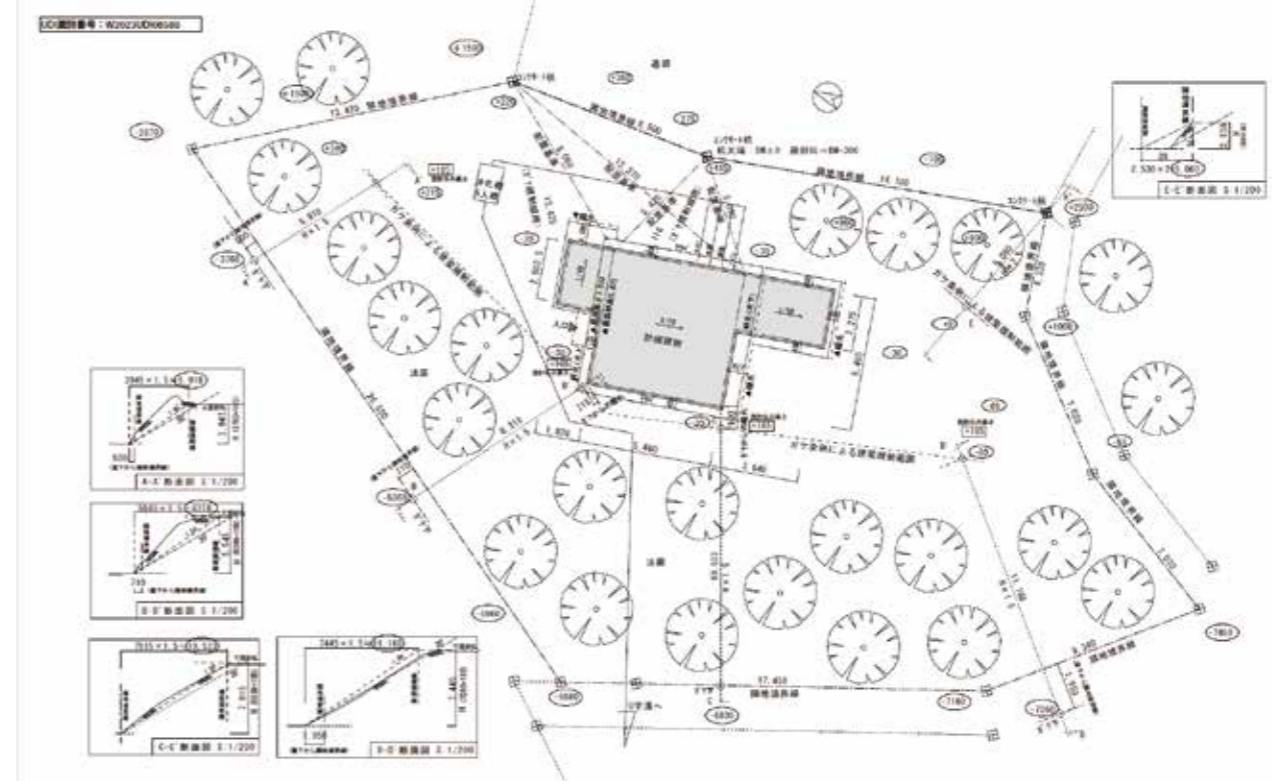


ゆめゆめ株式会社

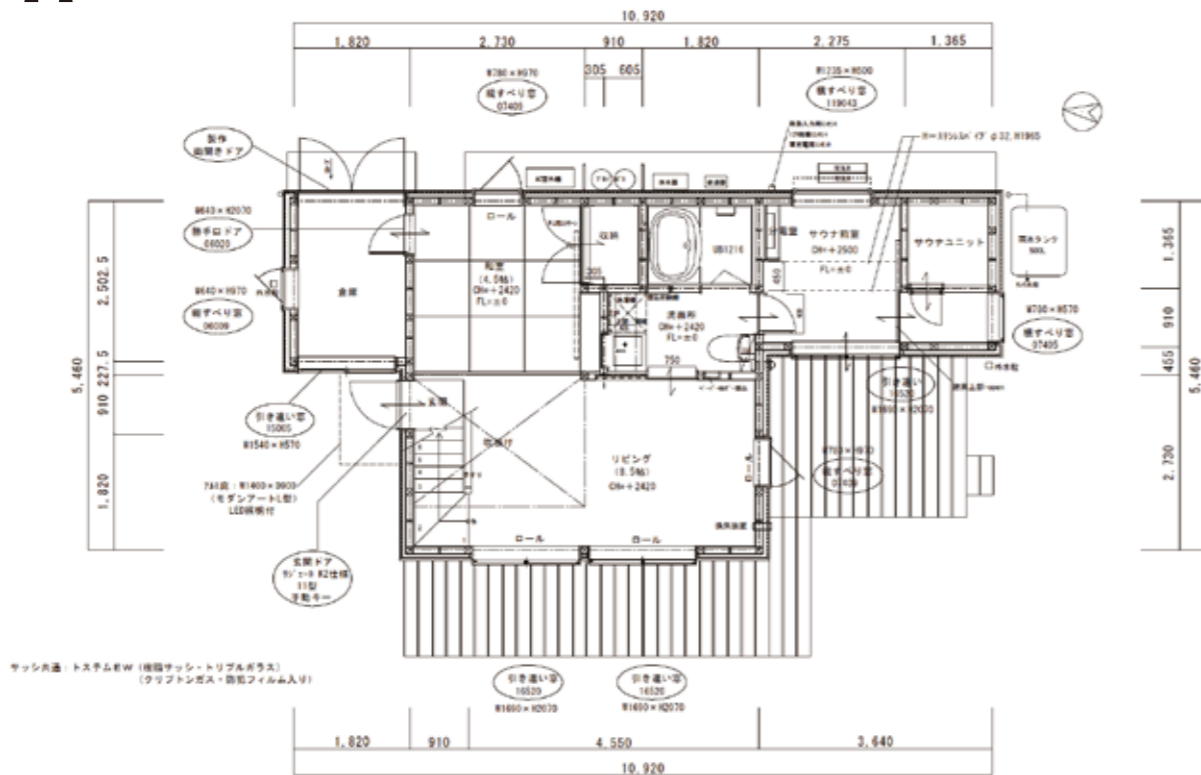
案内図



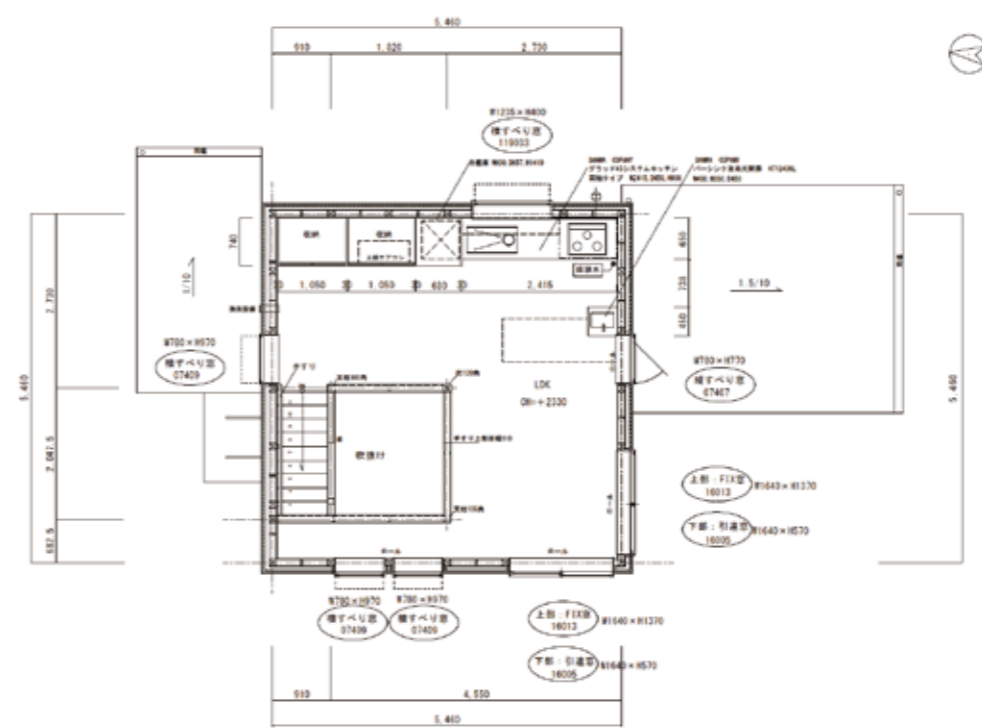
配置図



1F

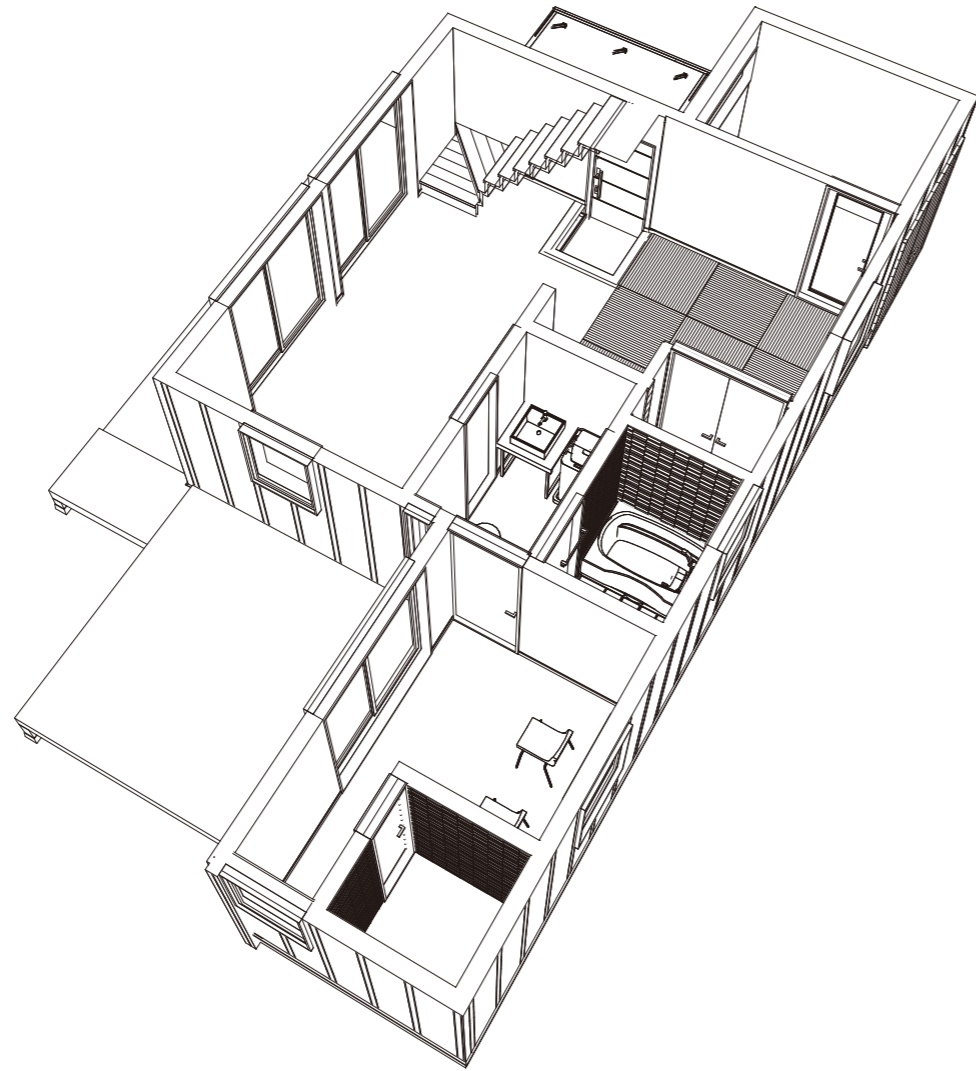


2F

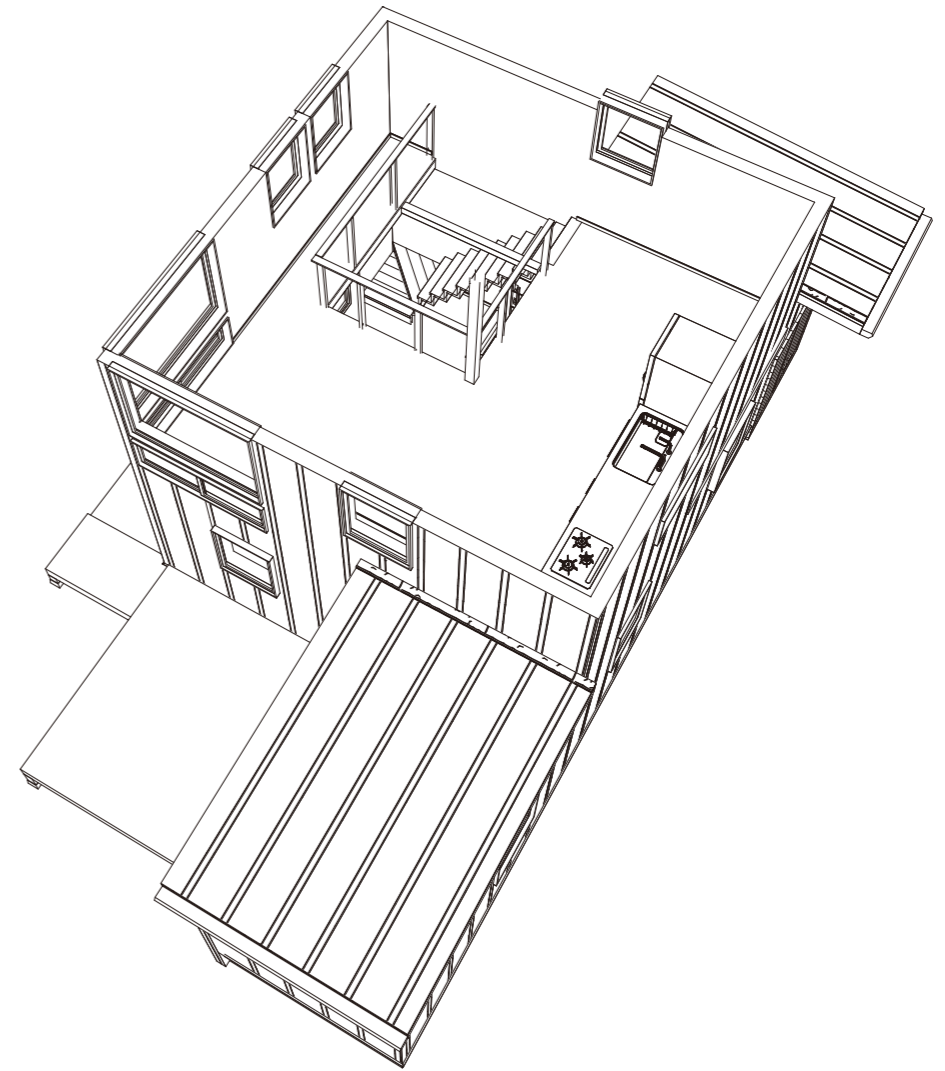


鳥瞰図

鳥瞰図-1F

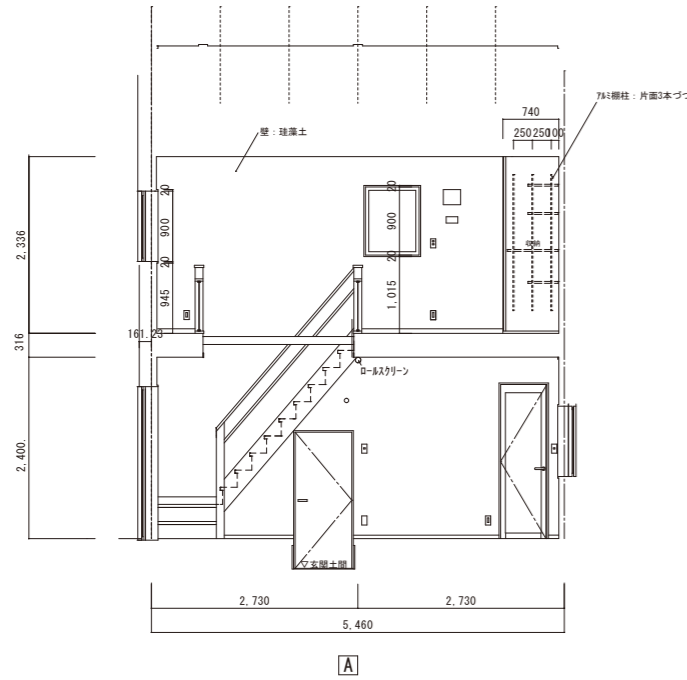


鳥瞰図-2F

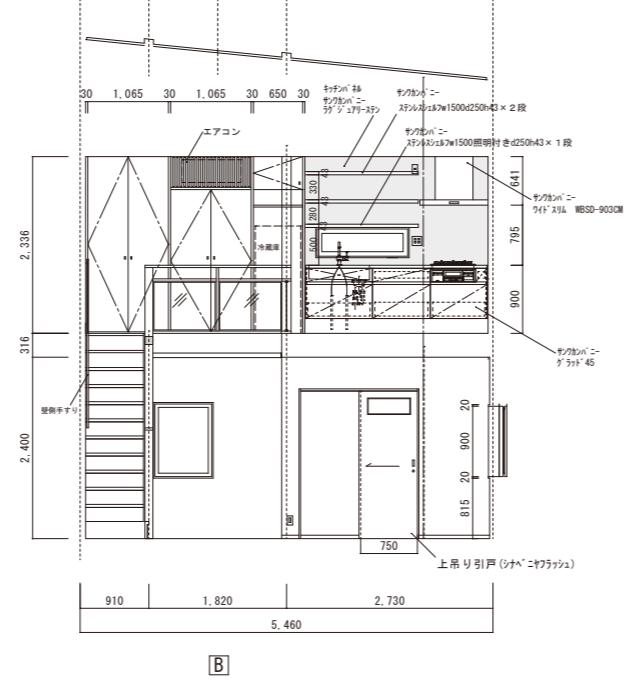


展開図

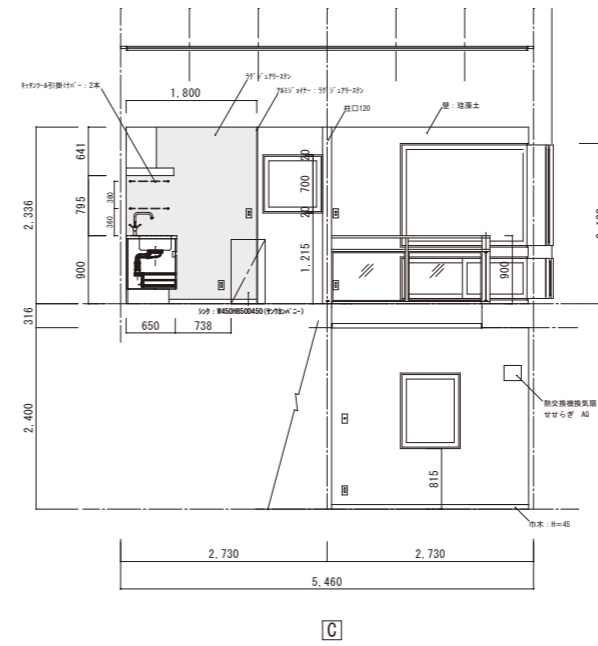
母屋北面



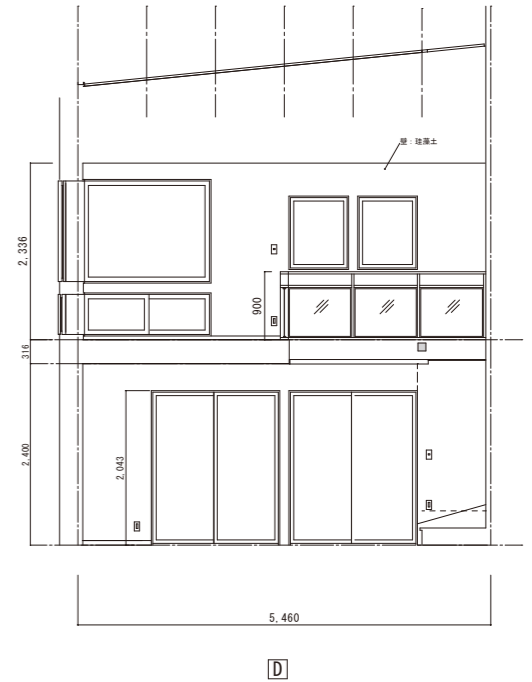
母屋東面



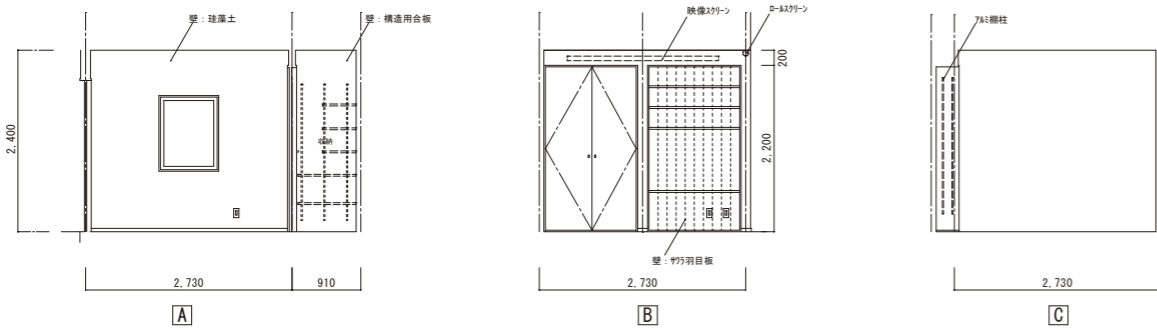
母屋南面



母屋西面

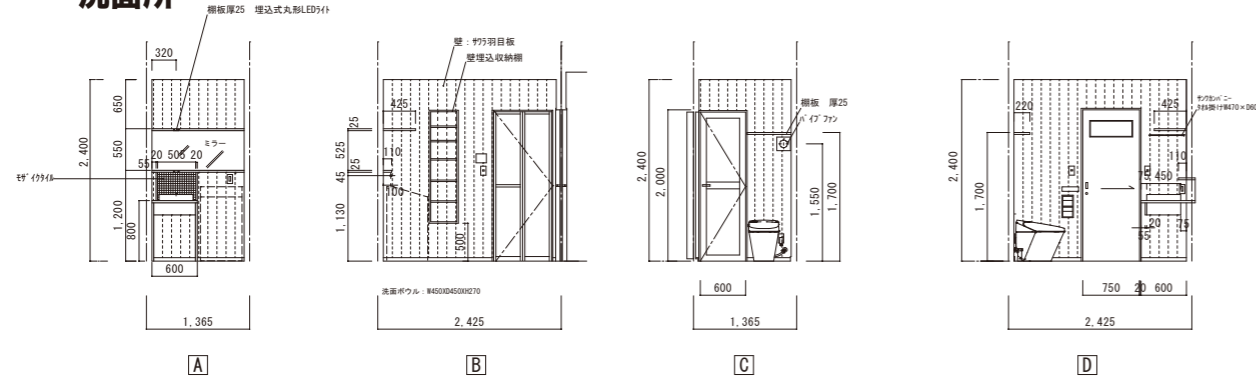


和室



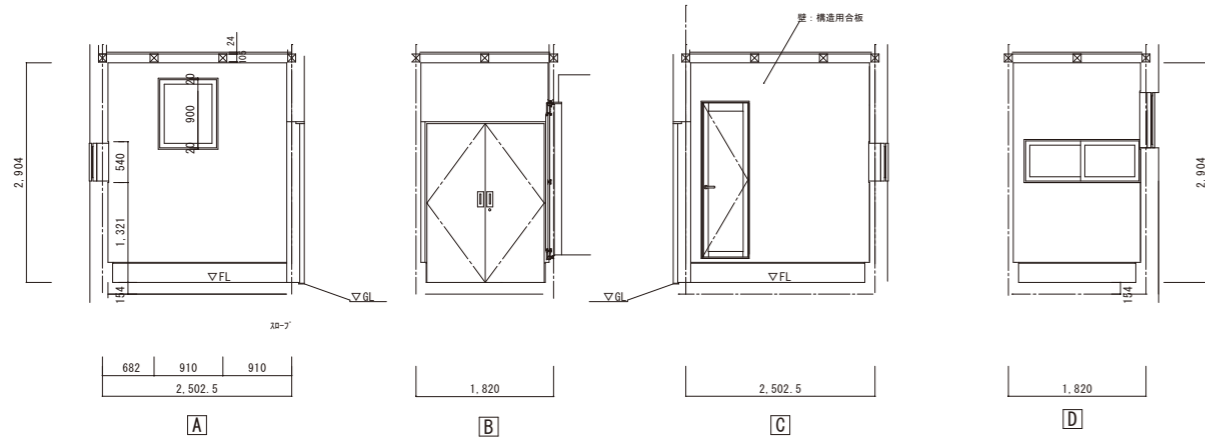
和室

洗面所



展開図

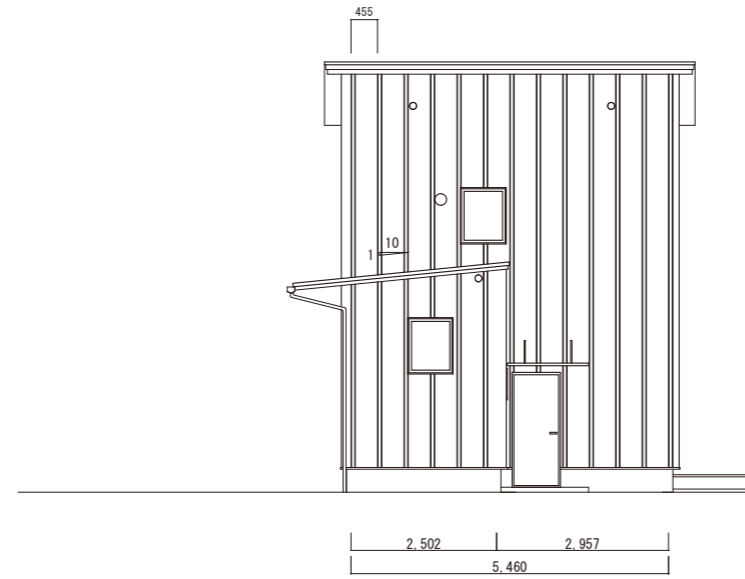
工作室



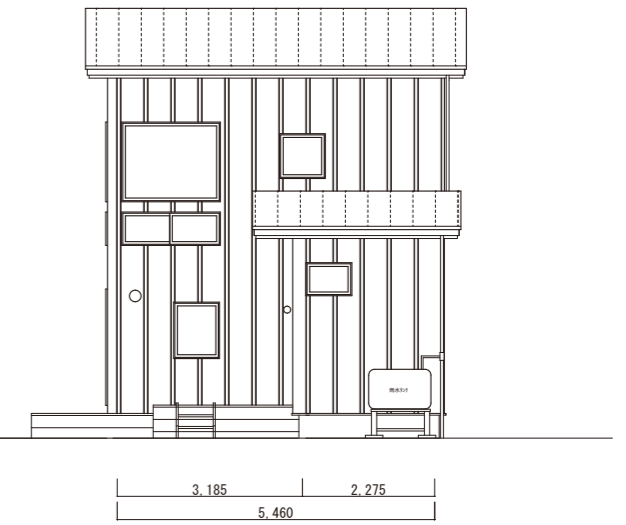
物置

外観図

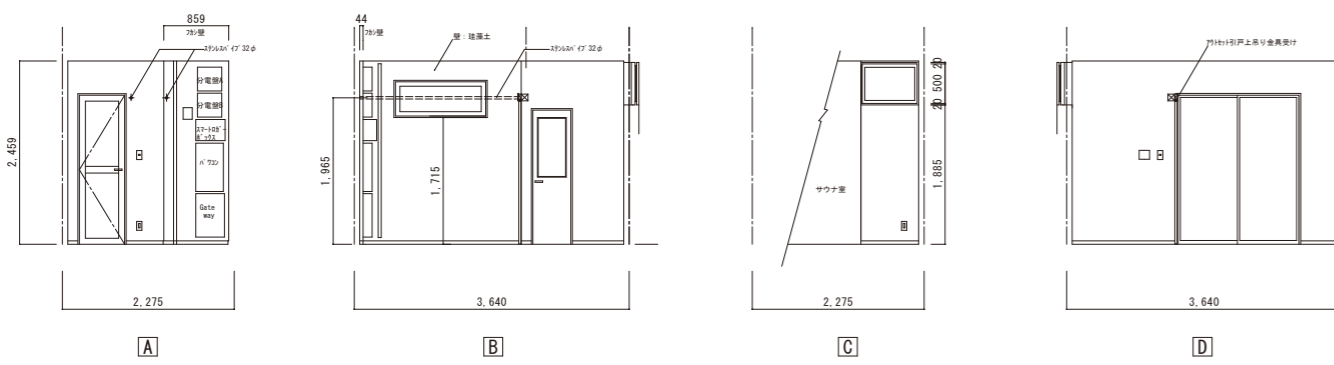
北側



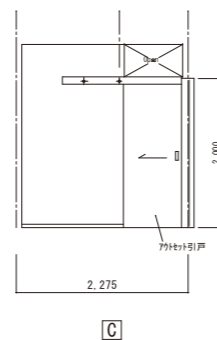
南側



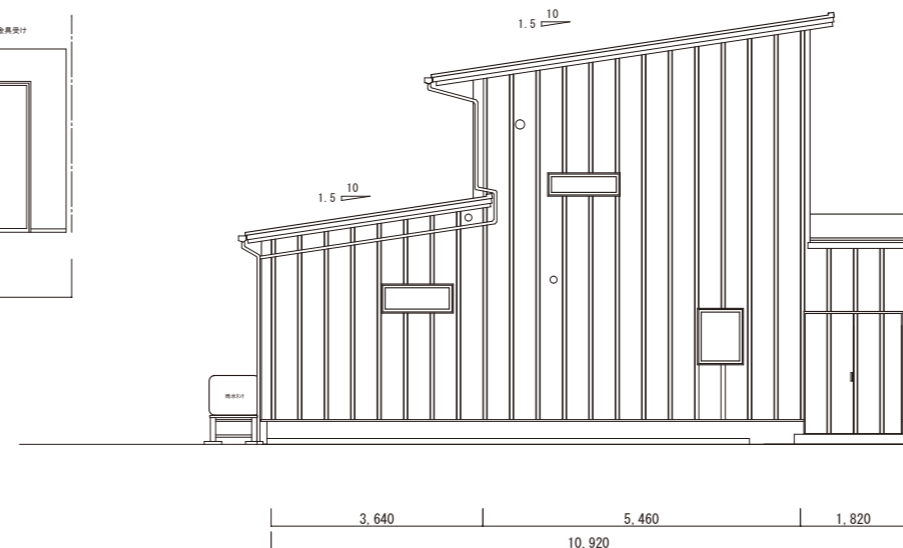
休憩室/サウナ室



サウナ前室



東側



西側

